Strix Vol. 31, pp.159–163, 2015
Journal of Field Ornithology ©Wild Bird Society of Japan

―短報―

三重県紀宝町におけるヤドリギツグミ *Turdus viscivorus* の越冬記録

中井節二 *・梅垣佑介

奈良女子大学生活環境学部　〒630-8506 奈良県奈良市北魚屋西町

ヤドリギツグミ *Turdus viscivorus* はヨーロッパのほぼ全域と中央シベリア，中央アジア，ヒマラヤ山脈西部にかけて分布し，冬は分布域内の南寄りの地域や北アフリカ，パキスタン北部などで越冬する（Cramp 1988，Clement & Hathway 2000）．著者らは 2013 年 12 月に三重県紀宝町の農地で本種を発見し，2014 年 4 月まで継続して観察した．本種は国内からの記録がこれまで 4 例しか知られていない記録僅少種であり，また国内からの確実な越冬事例は初めてであるため，ここに報告する．

観察記録

本個体は 2013 年 12 月 17 日午前 11 時頃，三重県南牟婁郡紀宝町井内（北緯 33° 47′ 19″，東経 135° 59′ 16″）の刈り取り済みの稲田に降りているところを第一著者が発見した．その後も同所に滞在し，2014 年 4 月 8 日が終認であった．

本個体は同時に観察されたツグミ *T. naumanni eunomus* と似た体形をしていたが，ツグミより明瞭に大きく，ぼってりとした体形であった．頭上から背，腰，上尾筒にかけての体上面はオリーブ色みのある灰褐色で，腰付近はやや淡く，上尾筒の羽縁は汚白色だった（図 1）．尾は黒褐色で，R2–5 の内弁先端部と R6 の外弁および内弁羽先側は汚白色だった（図 1）．翼部は黒褐色で，中・大雨覆の羽先に小さな汚白色斑が見られた．内側・外側大雨覆の間には明瞭な長さの差が認められた．また，下雨覆は白っぽく見えた（図 2）．顔と耳羽は灰白色で，耳羽を囲むように黒褐色の縁取りがあった．眼の周囲には汚白色のアイリングがあった．腮から喉，胸，腹，下尾筒にかけての体下面は白っぽく，側胸から脇にかけてはバフ色がかっていた．腮から喉にかけては黒褐色の縦斑があり，上胸から下腹にかけては丸みのある黒褐色の斑がぼつぼつとあった．側胸は斑がにじんだように黒褐色のパッチ状に見えた．下尾筒には黒褐色の軸斑があった．嘴は淡褐色で，先端部が黒っぽかった．脚は明るい肉色だった．

本個体は，モズ *Lanius bucephalus* に追尾された際に，エナガ *Aegithalos caudatus* にやや似た「ジュルジュル」という声や，「キャッキャッ」と聞こえる声を発した．また，天気の良い日に畦で休息している時に「ヒー，ヒー」と聞こえる高くか細い声を発した．

滞在中ほとんどの期間において，刈り取り済みの開けた稲田の地上で採餌し，300m × 150m の範囲から離れることはほとんどなかった．単独で行動し，農耕地でミミズ類 Oligochaeta やタニシ科 Viviparidae などの小型巻貝，小型のカエル目 Anura などを捕食した．警戒心は弱く，5m ほどの距離で観察されたこともあった．上空をハイタカ *Accipiter nisus* が舞った時や，モズに追尾された時には一時的に稲田を離れ，隣接する山林に逃げ込むことがあった．また，稲田に隣接する林縁のハゼノキ

2014 年 9 月 12 日 受理
キーワード：ヤドリギツグミ，Turdus viscivorus，三重県，越冬

* 現住所　〒519-4326 三重県熊野市久生屋町 1235-4

表 1. 国内におけるヤドリギツグミの記録
Table 1. Records of Mistle Thrush observation in Japan.

No	記録年月日 Date	都道府県 Prefecture	地名 Place	個体数 No. of individuals	状況 Status	出典 Reference
1	1984.2.8–3.28	愛知県 Aichi	名古屋市小幡緑地 Obata Ryokuchi, Nagoya	1	観察・撮影 Observed/Photographed	Brazil 2003, 川路ら 2003 Brazil 2003, Kawaji et al. 2003
2	1998.11.3	福岡県 Fukuoka	相の島 Ainoshima	1	観察・撮影 Observed/Photographed	宮崎 2002 Miyazaki 2002
3	1999.10.15	石川県 Ishikawa	輪島市海士町舳倉島 Hegurajima, Kaishi-cho, Wajima	1	観察・撮影 Observed/Photographed	平野・尾崎 2002 Hirano & Ozaki 2002
4	2013.10.28	石川県 Ishikawa	輪島市海士町舳倉島 Hegurajima, Kaishi-cho, Wajima	1	観察・撮影 Observed/Photographed	新山英憲氏私信 Hidenori Niiyama pers. comm.
5	2013.12.17–2014.4.8	三重県 Mie	南牟婁郡紀宝町 Kiho-cho, Minamimuro-gun	1	観察・撮影 Observed/Photographed	本報告 This report

Toxicodendron succedaneum (L.) Kuntze の 実を食べることもあった.

考察

先述した大きさや体形，体色の特徴から，本個体はツグミ亜科 Turdinae に属すると考えられた．同亜科に属する種のうち，ツグミより明瞭に大きく，上面が一様で斑がなく，体下面に丸みのある黒褐色斑があるのはセアカトラツグミ *Zoothera mollissima*，オナガトラツグミ *Z. dixoni*，ヤドリギツグミである．このうち，セアカトラツグミは上面に赤褐色みがあり，雨覆の羽先に斑がなく，体下面には黒褐色の横斑があるため（Clement & Hathway 2000）本個体と異なる．オナガトラツグミは上面のオリーブ色みが強く，体下面の黒褐色斑は三日月形であるため（Clement & Hathway 2000）本個体と異なる．また，本個体の体色や模様はウタツグミ *T. philomelos*，チベットウタツグミ *T. mupinensis* とも類似する．しかし，ウタツグミはツグミより小型で（真木ら 2014），尾が短く（Clement & Hathway 2000, Svensson et al 2009），体下面の黒褐色斑は上方で尖り（Van Duivendijk 2011，五百澤ら 2014），下雨覆は淡い黄褐色またはバフ色で（高野 1995，Clement & Hathway 2000，Brazil 2009，Svensson *et al*. 2009，Van Duivendijk 2011，五百澤ら 2014，真木ら 2014），上面はより褐色みが強いため（Clement & Hathway 2000，Van Duivendijk 2011，五百澤ら 2014，

図 1. 三重県紀宝町で観察されたヤドリギツグミ. 2014年4月1日，撮影：中井節二
Fig. 1. Mistle Thrush observed in Kiho-cho, Mie Pref. Photographed by S. Nakai on April 1st, 2014,

図 2．三重県紀宝町で観察されたヤドリギツグミ．2014 年 1 月 12 日．撮影：中井節二．
Fig. 2. Mistle Thrush observed in Kiho-cho, Mie Pref. Photographed by S. Nakai on January 12th 2014.

真木ら 2014）本個体と異なる．また，外側尾羽先端の白色部はウタツグミにはない（Jonsson 1992，高野 1995，Clement & Hathway 2000）．チベットウタツグミはウタツグミとよく似ており，ウタツグミよりわずかに大きい程度で，眼の下と後方に二本の明瞭な黒斑があるため（Clement & Hathway 2000）本個体と異なる．以上から，本個体をヤドリギツグミと判断した．なお，類似種の和名については山階（1986），世界鳥類名勉強会（2002）に従った．

ヤドリギツグミは 3 亜種に分類されることが多い（Svensson 1992，Clement & Hathway 2000，del Hoyo *et al.* 2005，Clements 2007，Gill & Donsker 2014）．亜種間の差は連続的だが，東側に分布するものほど体色が淡色になる（Clement & Hathway 2000）．最も東に分布する亜種 *T. v. bonapartei* は，ヨーロッパに分布する基亜種 *T. v. viscivorus* と比較してわずかに大きく，翼が長く，体上面が淡色で灰色みを帯び，体下面は白っぽく，暗色斑は黒みが乏しい（Clement & Hathway 2000）．第二著者は冬季にイギリスで基亜種を複数回観察しており，それらと比べて本個体はより体上面の褐色みが乏しく，体下面は白っぽく，暗色斑は黒みが乏しいように感じられた．したがって，本個体は亜種 *T. v. bonapartei* の可能性が高い．しかし，基亜種でも東側に分布するものほど体色が淡色になる傾向があるうえ（Clement & Hathway 2000），本種は個体ごとの体色の差が大きく（Cramp 1988），野外観察のみから亜種を断定することは難しい．

本個体の大雨覆は内側と外側の各羽の間に長さと模様の差があり，内側と比較して外側大雨覆は短く，汚白色の羽縁の幅がやや太い．本種の成鳥は繁殖後の完全換羽において大雨覆をすべて換羽し，長さと模様が一様になる一方，幼鳥は部分換羽により第 1 回冬羽を獲得する際に外側大雨覆に幼羽を残すことがあり，そういった羽根は短く，羽縁の幅がより太い（Svensson 1992，Van Duivendijk 2011）．大雨覆の特徴から，本個体は第 1 回冬羽と考えられる．本個体の性は特定できなかった．

本報告は本種の国内 5 例目の記録であり（表 1），初めて越冬が確認された事例である．国内でのこれまでの記録として川路ら（2003）は他に 2 例を記載しているが，いずれも検証可能な写真などの客観的証拠がなく，ここでは除外した．なお，真木ら（2014）に掲載されてい

るのは本個体である（大西敏一氏私信）．

本種はヨーロッパのほぼ全域と中央シベリア，中央アジア，ヒマラヤ山脈西部にかけて分布し，冬は分布域内の南寄りの地域や北アフリカ，パキスタン北部などで越冬する（Cramp 1988，Clement & Hathway 2000）．分布域の東端はバイカル湖南西部であり（Cramp 1988，Clement & Hathway 2000），分布域の北・東部に分布するものは長距離の渡りをすると考えられる（Cramp 1988）．亜種 *T. v. bonapartei* はオビ川以東からイェニセイ川流域，バイカル湖南西部，およびアルタイ・天山山脈付近，新疆北・南西部から中央アジア，ヒマラヤ西部にかけて分布し（Clement & Hathway 2000），ロシアに分布する個体群は冬にカザフスタン南部やタジキスタン，中東まで移動すると考えられる（Cramp 1988）．長距離の渡りを行う北東部の個体が，三重県紀宝町に迷行した可能性が考えられる．なお，本個体には翼部・尾の不自然な摩耗や嘴・脚の瘤など，飼育個体のかご脱けを示唆する特徴は見られなかった．

本論文の執筆にあたり，情報や資料をご提供いただいた池長裕史氏，大西敏一氏，矢田新平氏，2013 年の石川県舳倉島での記録についてご教示いただいた新山英憲氏，論文の改良のための有益なコメントをいただいた所崎聡氏，渡部良樹氏，山崎剛史氏，そして二名の審査者の方々に感謝申し上げる．

引用文献

Brazil, M. A. 2003. Mistle Thrush *Turdus viscivorus*: New for Japan. 山階鳥研報 34: 320–324.

Brazil, M. 2009. Birds of East Asia. Christopher Helm, London.

Clement, P. & Hathway, R. 2000. Thrushes. Princeton University Press, New Jersey.

Clements, J. F. 2007. The Clements Checklist of Birds of the World. 6th ed, Cornell University Press, New York.

Cramp, S. (ed). 1988. Handbook of the Birds of Europe, the Middle East and North Africa: The Birds of Western Palearctic. Vol. V. Tyrant Flycatchers to Thrushes. Oxford University Press, Oxford.

del Hoyo, J., Elliott, A., & Christie, D. A. (ed). 2005. Handbook of the birds of the world. Volume 10: Cuckoo-shrikes to Thrushes. Lynx Edicions, Barcelona.

Gill, F. & Donsker, D. (eds). 2014. IOC World Bird List (v 4.1). doi : 10.14344/IOC.ML.4.1.

平野賢次・尾崎雄二. 2002. 石川県におけるヤドリギツグミの初記録. Strix 20: 179–180.

五百澤日丸・山形則男・吉野俊幸. 2014. ネイチャーガイド新訂 日本の鳥550山野の鳥. 文一総合出版, 東京.

Jonsson, L. 1992. Birds of Europe with North Africa and the Middle East. Christopher Helm/A&C Black, London.

川路則友・平岡考・梶田学・浦野栄一郎・柳澤紀夫・西海功・金井裕・池長裕史・亀谷辰朗. 2003. 日本産鳥類記録リスト (2). 日鳥学誌 52: 44–51.

真木広造・大西敏一・五百澤日丸. 2014. 決定版日本の野鳥650. 平凡社, 東京.

宮崎八州雄. 2002. 本邦二例目のヤドリギツグミの記録. 佐賀自然史研究 8: 28.

世界鳥類名勉強会. 2002. 「世界の鳥」リスト改訂版. 株式会社野生生物保全研究所, 大阪.（フロッピーディスク）

Svensson, L. 1992. Identification Guide to European Passerines. Fourth, revised and enlarged edition. Published by the author, Stockholm.

Svensson, L., Grant, P. J., Mullarney, K., & Zetterström, D. 2009. Collins Bird Guide. 2nd edition. Harper Collins, London.

高野伸二. 1995. フィールドガイド日本の野鳥：増補版. 日本野鳥の会, 東京.

Van Duivendijk, N. 2011. Advanced Bird ID Handbook.

The Western Palearctic. New Holland Publishers, London.

山階芳麿. 1986. 世界鳥類和名辞典. 大学書林, 東京.

Wintering Record of a Mistle Thrush *Turdus viscivorus* in Kiho-cho, Mie Prefecture, western Japan

Setsuji Nakai * & Yusuke Umegaki

Faculty of Human Life and Environment, Nara Women's University. Kita-Uoya-Nishimachi, Nara City, Nara, 630-8506, Japan

A Mistle Thrush *Turdus viscivorus* with the first winter plumage was observed from December 17th 2013 to April 8th 2014 in Kiho-cho, Mie Prefecture, western Japan. This is the first wintering record and the 5th observation of the species in Japan.

Key Words：Mistle Thrush, Turdus viscivorus, winter record, Mie Prefecture, Japan.

Present address*: 1235-4 Kushiya-cho, Kumano City, Mie, 519-4326, Japan